0

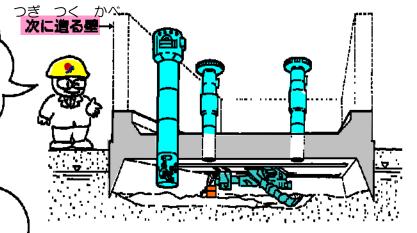
(あらまし、だいたいのところ)

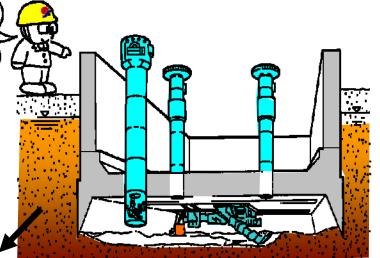
みず ちかすい ほ へや へや さっきの水を地下水、コップを 掘るための部屋と おも した ず み おも **思って、下の図を見てください。**

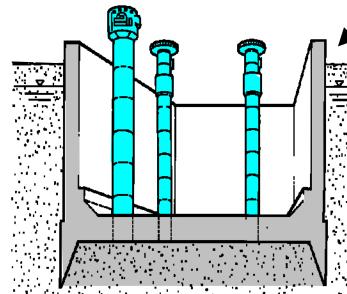


はじめは、掘るための部屋を造りひつよう。きかい 必要な機械をとり付けま~す。 このとき地下水が入らないように 圧縮空気を部屋の中に送ります。

した ほ 下を掘るとコンクリートの重さで 沈んでいきます。 しず うえ たてもの つく つまり、沈んでは上に建物を造り かえ 沈んでは造りとくり返します。 このとき計画通りきちんと沈める のがぼくたちの技術なんです!







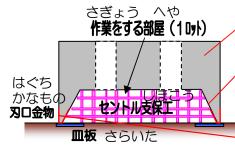


ちそう しず ほかんだら掘る へや なか なか お屋の中にコンクリートを ながしこ 流込みます。

これでニューマチックケーソン こうほう かんりょう 工法が完了し、しっかりとした きそ 基礎となるんです。 さぎょう じゅんじょ

作業の順序

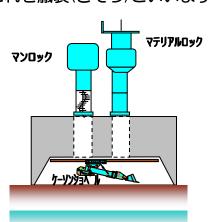
1. 地面を平らにし、部屋となる くうかん つく 空間を作るためパイプの柱や いた は 板を張り、10ットを造ります。 てっきん (鉄筋を組み、コソクリートを打つ)



げんば ぞうすい そな **※この現場では、増水に備え**

てついた。たかいちしまって鉄の板で高い位置に島を造ります。

ほ せつび 2. 掘るための設備をとりつけます。 これを艤装(ぎそう)といいます。





このうえにのせる

はぐちかなもの

※いちばんしたを

つよくする

刃口金物

参考 - 3

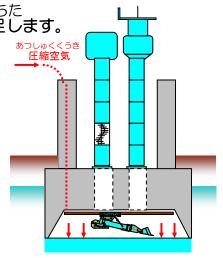
くうどう かたわく 空洞をつくる型枠

てっきんくみたて

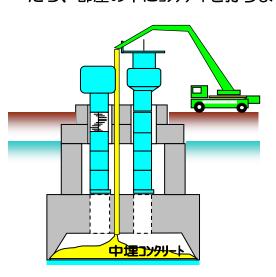
鉄筋組立

へや なか ほ おも しず つぎ ぶぶん うちた
3. 部屋の中を掘りコソクリートの重さでケーソンを沈め次の部分を打足します。
とき へや なか あっしゅくくうき
この時、部屋の中に圧縮空気をおくりつづけます。



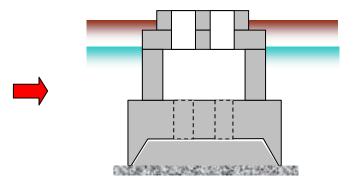


き ふか しず **4. ケーソンを決められた深さまで沈め** へや なか う **たら、部屋の中にコンクリートを打ちます。**



へや なか かた **5. 部屋の中のコンクリートが固まったら** せつび はず **設備を外します。**

これを、艤装解体(ぎそうかいたい) といいます。

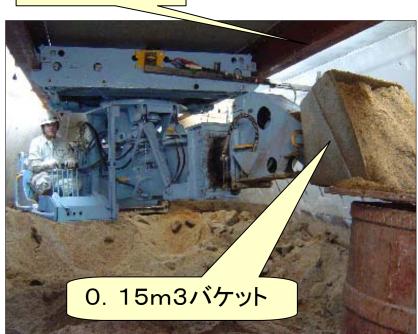


ケーソンショベル

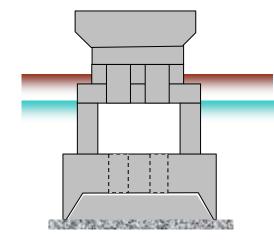
作業をする部屋の天井レールをはし、ブームを伸び縮みさせ せんかい 360° 旋回します。

きかい でんき うご この機械は電気で動いています。

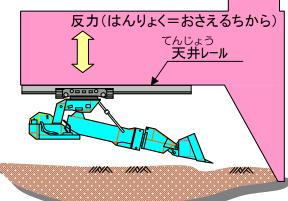
てんじょう **天井レール**



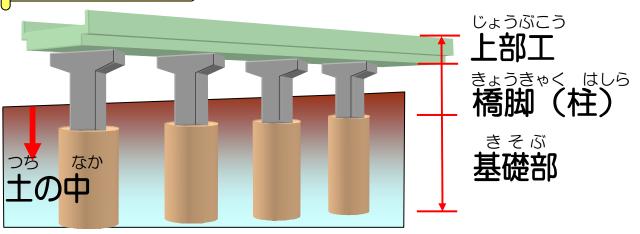
きょうきゃく ご じょうぶ うちた かんせい 6. その後、上部を打足し、橋脚の完成と なります。



てんじょう 天井のレールをがっちりつかむ<mark>ので</mark> ちからづよ 力強く掘ることができる。



てんじょう いどう 天井のレールを移動するので じめん かんけい 地面がガタガタでも関係なし! はし こうぞう **橋の構造**



はし おお わ きそぶ きょうきゃくぶ はしら **橋というのは 大きく分けて基礎部、橋脚部(柱)** じょうぶこう

上部工で、できています。

この現場では ニューマチックケーソン工法と言う にこの現場では ニューマチックケーソン工法と言う まうほう きそぶ きょうきゃくぶ はしら ちちゅう つく 方法で、基礎部・橋脚部(柱)を地中に造っています。

ニューマチックケーソン工法とは?

ニューマチック = 圧気 (圧縮空気を送って気圧を上げる) ケーソン = 図 (はこ)

はんかんこうほう 潜図工法と呼ばれる。

コップをさかさまにして
みず なか
水の中に入れてください。
はい
コップの中に水は入ってきません。
これが、この工法の元です。
たいへんかんたん
大変簡単なんです。

